レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
東京ダービー	2018/6/6	SI	大井	2000m	ハイペース	重	展開

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	ナムラバンザイ	牡3	56	張田	ヨハネスブルグ	ノーザン系	エルコンドルパサー	ミスプロ系	D	C	C	D	C	C		
	2	プロミストリーブ	牡3	54	御神本	ヘニーヒューズ	ノーザン系	フジキセキ	サンデー系	B	A	C	B	B	B	△2	
2	3	トーセンブル	牡3	56	本田	トーセンブライト	ロベルト系	トーセンダンス	サンデー系	D	B	C	B	C	C		
	4	モジアナフレイバー	牡3	56	繁田	バトルプラン	ミスプロ系	フレンチデピュティ	ノーザン系	B	B	A	B	B	B	▲	
3	5	ヤマノファイト	牡3	56	本橋	エスポワールシチー	サンデー系	フォーティナイナー	ノーザン系	A	B	A	B	A	B	○	
	6	リコーワルサー	牡3	56	今野	ブラックタイド	サンデー系	デピア	ノーザン系	B	C	B	B	B	B	△1	
4	7	スプリングマン	牡3	56	左海	ローズキングダム	ミスプロ系	ゼンノメイジン	ミスプロ系	D	A	D	C	C	C		
	8	クロスケ	牡3	56	笹川	キャプテントゥーレ	サンデー系	ブライアンズタイム	ロベルト系	D	B	B	B	C	C		
5	9	キングオブポップ	牡3	56	吉原	スマートファルコン	サンデー系	アフリート	ミスプロ系	D	A	B	C	C	C		
	10	マースインディ	牡3	56	達城	カジノドライヴ	ナスルーラ系	ネオユニヴァース	サンデー系	D	C	C	B	C	C		
6	11	フレアリングダイヤ	牡3	56	真島	ストロングリターン	ロベルト系	ブラックホーク	ノーザン系	D	B	C	B	C	C		
	12	クリスタルシルバー	牡3	56	的場文	サムライハート	サンデー系	アジュディケーティング	ノーザン系	D	C	C	B	C	C		
7	13	ドンビー	牡3	56	和田	タイムパラドックス	ロベルト系	ダンスインザダーク	サンデー系	D	C	C	C	C	C		
	14	ハセノパイロ	牡3	56	矢野	パイロ	ナスルーラ系	ティンバーカントリー	ミスプロ系	B	A	A	B	A	B	◎	
8	15	ワグナーコーヴ	牡3	56	赤岡	マンハッタンカフェ	サンデー系	Salt Lake	ミスプロ系	C	A	C	C	C	C		
	16	ユニバーサルライト	牡3	56	瀧川	ロジユニヴァース	サンデー系	シニスターミニスター	ナスルーラ系	D	B	B	C	C	C		

隊列図

		ワグナ
スプリ	リコー	ヤマノ
ユニバ	ハセノ	プロミ
ドンビ	キング	モジア
クリス	クロス	ナムラ
フレア	マース	トーセ

ハイペース

見解

東京ダービーを予想する上でまず大事なので、「非常にタフなレースになりやすい」ということだ。その上で今年の展開を考えると、逃げるのは外枠に入ったワグナーコーヴ。羽田盃は内で揉まれたことが敗因。元々、スタートセンス抜群なので、赤岡騎手なら行き切るはず。２番手は、羽田盃を逃げ切ったヤマノファイト。鞍上の本橋騎手は自信を持っているようで、ここも強気に乗ってくるはず。そこまでガシガシと行くタイプの騎手ではないが、再度の逃げの手もあるかもしれない。そのヤマノファイトをマークする形でリコーワルサー。羽田盃と同じくヤマノファイトの隣枠からの発走。鞍上はテン乗りの今野騎手。先行策で結果が出たなら変に自分の色を出さず、再度ヤマノファイトを徹底マークするだろう。有力各馬が前々で運ぶことで、今年も東京ダービーらしい消耗戦が濃厚。京浜盃、羽田盃は結果的に行った行ったの決着だったが、東京ダービーは４コーナーの通過順と着順が変わるレースになるだろう。上位勢が抜けて強いので、展開ですべてが決まるようなレースにはならないが、大井2000mの究極のポテンシャル勝負に耐えられるかどうかが重要になる。

本命は**ハセノパイロ**の真価が発揮されるはず。（以下省略）

ラップタイム

回顧

次走狙い馬

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	ナムラバンザイ		転入２戦目で一変。南関東ではよくあるパターンだが、すんなりと逃げられたのが良かったか。今回は相手強化、距離延長、同型の存在などマイナス要素が多く、苦戦必至だろう。		
	2	プロミストリープ	△2	東京プリンセス賞の走破時計１分54秒６は、羽田盃ならモジアナフレイバーとクロスケの間の５着に相当。今回、上位争いするためには、時計をさらに詰める必要はあるが、まだキャリア４戦の身。上昇の余地を残しており、前走の走破時計＝能力の絶対値と見ないほうが良さそう。		
2	3	トーセンブル		馬体が小さく、２歳時からの成長がいまひとつ感じられない。京浜盃、羽田盃と一級線相手に完敗。展開が向いても上位争いまでは難しいのでは。		
	4	モジアナフレイバー	▲	羽田盃は初の一級線相手にあそこまで走れば、上出来だろう。母父は使われて使われて強くなるフレンチデピュティの血。一級線相手の競馬を経験したことで、今回はもう一段上のパフォーマンスを発揮できるかもしれない。展開の後押しもありそうだ。		
3	5	ヤマノファイト	○	羽田盃は、自力でつかんだ勝利。鞍上の本橋騎手が「並ばれれば並ばれるだけ伸びそう」と述べていたように、実際にリコーワルサーに抜かれる雰囲気は全くなかった。今回は前に馬を置く形になりそうだが、レースセンス抜群で、どんな競馬にも対応できるのが強み。		
	6	リコーワルサー	△1	羽田盃は逃げるヤマノファイトを徹底マークしながら、最後まで交わせずに２着。距離が200m伸びて、逆転できる印象を受けなかった。鞍上が森騎手から今野騎手に替わったのも痛い。唯一の強調材料は、管理する荒山調教師が「羽田盃は８分の仕上がりだった」と述べていること。		
4	7	スプリングマン		クラウンカップのように行き切れればもう少し走れそうだが、羽田盃の行き脚を見ると、玉砕覚悟で行かない限り、逃げるのは難しそう。仮に逃げられたとしても距離が長く、４コーナーで捕まるだろう。		
	8	クロスケ		どんな競馬にも対応でき、コーナーリングも非常に上手いので、現代競馬で重宝すべき存在だが、羽田盃では１～４着馬に完敗。今回、大きな上積みがあるとも思えず、羽田盃上位勢を負かすのは難しいのでは。		
5	9	キングオブポップ		東京ダービートライアルの勝ち時計は２分11秒４。東京ダービーは例年２分７秒前後で決着することが多く、前走の走破時計なら４秒近く短縮しないと勝ち負けできない。常識的に考えてそれは難しいだろう。		
	10	マースインディ		末脚堅実な差し馬だが、相手が強化されてから雲取賞４着、クラウンカップ４着、羽田盃９着と結果を残せず。今回も厳しい戦いを強いられるのでは。		
6	11	フレアリングダイヤ		相手なりに走るタイプだが、３走前の京浜盃では７着と完敗。一級線相手では能力的に足りない。		
	12	クリスタルシルバー		鞍上は悲願のダービー制覇がかかる的場文男騎手。期待込みでそれなりに売れるかもしれないが、京浜盃４着、羽田盃７着と完敗。今回は両レースの上位勢がそろって出走しており、掲示板に入るのも難しいだろう。		
7	13	ドンビー		全日本２歳優駿で11着と大敗してからどうも自分の走りができていない。京浜盃では３コーナー過ぎに失速して12着。ガラリ一変を期待できる要素はなく、苦戦濃厚だろう。		
	14	ハセノパイロ	◎	ニューイヤーカップ６着→京浜盃５着→羽田盃３着としり上がりにパフォーマンスが上昇。決して早熟だったわけではなく、年明けは馬自身の体調が良くなかったのだろう。羽田盃は上り勝負に対応できずの敗戦。距離延長、展開の後押しがあれば、ヤマノファイトとの逆転まである。		
8	15	ワグナーコーヴ		羽田盃は控えたことで揉まれてしまい、本来の力を発揮できず。今回は外枠＋赤岡騎手で是が非でもハナを奪っていきそう。自分の形には持ち込めるかもしれないが、直後にヤマノファイト、リコーワルサーらが追走。展開的にはどう考えても厳しく、逃げ残りは難しいはず。		
	16	ユニバーサルライト		東京湾カップでは京浜盃で７着と完敗していたフレアリングダイヤとタイム差なしの競馬。一級線相手ではは力不足だろう。		